

平成 26 年度 第 1 回仙台市景観総合審議会 専門部会 議事録

日 時 平成 26 年 4 月 15 日 (火) 午前 10:00～12:00

会 場 仙台市役所本庁舎 2 階 第 5 委員会室

出席委員 武山 良三委員、相澤 義博専門委員、石井 光二専門委員、
高橋 貴美江専門委員、高橋 剛彦専門委員、並木 直子専門委員、
増田 聡専門委員

欠席委員 阿部 昌孝専門委員、北村 治専門委員、脇坂 隆一専門委員

仙 台 市 村上次長兼計画部長
経済局観光交流課、建設局道路計画課

事 務 局 都市整備局計画部都市景観課

1. 開会	
事務局	只今より、平成 26 年度仙台市景観総合審議会専門部会を開会いたします。私は、本日司会役を務めます、都市景観課の早川でございます。よろしく願いいたします。開会にあたりまして、都市整備局次長兼計画部長の村上よりごあいさつ申し上げます。
2. 村上次長挨拶	
村上次長	<p>みなさん、おはようございます。本日はご多忙のところ、この仙台市景観総合審議会専門部会にご参集いただきまして誠にありがとうございます。私はこの 4 月に都市整備局次長兼計画部長を拝命いたしました村上貞則と申します。どうぞ宜しくお願いいたします。</p> <p>先週桜が咲きまして、随分花見客も街中出てきておりますし、人出が多くなってきて、この 4 月からは消費税が 3%アップするということで、その街の賑わいというか買い物、消費動向にどのように影響があるのかということで危惧されていたところでございますけども、何かこの陽気に誘われて街ゆく人も随分出てきて、こういった買い物客が増える、そういった街の中の賑わいが増えるというような、まさに春真っ盛りという時期に今回の専門部会ということで、お集まりいただいた訳でございます。</p> <p>この専門部会につきましては、仙台市内におけます歩行者が目的地へ</p>

	<p>円滑に到達できる歩行者系案内誘導サインの基本方針の策定に向けた検討のために設置されたものであります。1月の審議会、2月の専門部会におきまして、専門委員の皆様から頂戴したご意見を踏まえまして、関係課などとも調整の上、内容を詰めて参りましたが、基本方針のコンセプトと表示基準につきまして事務局側の考えがまとまりましたので、本日はそれらについてご説明を申し上げ、皆様からご意見等を頂戴できればというふうに思っております。</p> <p>皆様ご承知おきのことと思いますが、本市の喫緊の重要課題の一つとしまして、来年3月には国連防災世界会議が本市で行われ、世界中から多くのお客様が本市にお越しになります。こうしたことから、初めて仙台にお越しになる、特に外国からのお客様だとか、もちろん国内からも多くの初めて仙台にいらっしゃる方もあろうかと思っております。やはり最初に来たときの土地の印象というのは、非常にそのあとのリピーターというか、いろんな方にまたご紹介いただくのも非常に大切かと思っております。そういった中で仙台空港や仙台駅などの仙台市に来られる方々の玄関口から、国際センターをはじめとする目的地まで、そしてまた、その市内中心部での買い物や、仙台らしさという部分を感じていただけるような、そういった散策等もしていただけるように円滑な誘導が出来るために、今日お集まりの専門委員の皆様の高いご見識に基づくご意見を踏まえて、基本方針を策定し、整備に繋げて参りたいと思っております。今は仙台市が復興、防災への確固たる決意の中で前進を進め世界に向けて、被災地ならではの情報発信もしなければならないという風に考えております。専門委員の皆様には様々なこれまでのご経歴の中からも色々なお力添えをいただいているところではあるますが、今回のこの歩行者系サインにつきましても、色々にご支援そして、ご指導の方お願いしたいと思います。甚だ簡単なご挨拶ですけれども私からの挨拶とさせていただきます。どうぞ宜しくお願いいたします。</p>
事務局	<p>続きまして、武山部会長よりご挨拶をお願いいたします。</p>
<p>3. 武山部会長挨拶</p>	
武山部会長	<p>みなさんおはようございます。大変良いお天気になりました、私は毎回仙台駅の方から歩いてまいりますが、アーケードを抜けていつも不思議に思っております。「ハピナ」って何のことなのかなと思うんですが、それを通り抜けますと今度は「クリスロード」と命名されておまして、それを私はずっと「クロスロード」と思っておまして思い込みが激しい性格でありまして、ずっとクロスロードと思っていたら、良く見たらクリスロードって、その「クリス」ってなんなんだろうとまた不思議に</p>

	<p>思ったりしています。案内誘導する上で言語・言葉というのは実は一番重要なポイントでありまして、慣れている言葉とか想起できる言葉がきますとわりとわかりやすいし記憶しやすい。ちなみに本町とか丸の内、あるいは駅前通とか市役所通りとかそういう名前ですと、すっとイメージできるというところがあるんじゃないかと思います。</p> <p>今回のサイン計画というのは与えられた条件に対して、何とか最善の方向案を示そうという、出てきたものを整理して上手く誘導するというところにならざるを得ないわけなんですけども、基本的にはそういったこともあるんですよ。外国人ということも出ましたけども、外国人にとって記憶できる言語ということも当然出てくるかと思えます。そういったことも含めて少し検討していけたらなと思っております。事務局も新しくなったようですし、また是非皆さんと共に案を出していければと思いますので、どうぞ宜しくお願いいたします。</p>
事務局	<p>武山部会長、ありがとうございます。本日宮城県の人事異動に伴いまして新しく宮城県観光課長になられました高橋様に専門委員をお願いしております。高橋専門委員、一言自己紹介をお願いできますでしょうか。</p>
高橋(剛)専門委員	<p>はい、高橋と申します。どうぞ宜しくお願いいたします。</p>
事務局	<p>どうもありがとうございます。本日の専門部会は10名中、7名の部会員がご出席でございます。過半数の出席でございますので会議は成立しております。なお、石井委員がご都合によりまして途中でご退席の予定でございます。ご了承をお願いいたします。</p> <p>歩行者系案内誘導サインの基本方針についての審議は、本日の意見を踏まえましてパブリックコメント最終案を作成し、次回5月13日の専門部会にご報告する予定でございます。それでは、本日の議事に移りたいと思います。以降の進行につきましては、議長の武山部会長にお願いいたします。</p>
4. 「歩行者系案内誘導サイン等整備基本方針の骨子について」	
武山部会長	<p>それでは進めさせていただきます。まず議事録の署名人を決めなければなりません。私と出席委員の名簿順で相澤委員にお願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか。</p> <p>それでは本日の議題です。「歩行者系案内誘導サイン等整備基本方針の骨子について」事務局よりご説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p>お配りしている資料のうち前半部分、「歩行者系案内誘導サイン等整備基本方針(案)の骨子について」説明させていただきます。</p>

はじめに今回の検討の取組みにつきまして、全体像をご説明いたします。平成12年度に策定しました「仙台市歩行者系サインガイドライン」について見直しを行い、修正や情報の追加に加え、利用のしやすさの向上などを検討し、新たにガイドブックを策定いたします。

ガイドブックの内容につきまして、仙台市域全体に係る歩行者系案内誘導サインの整備に係るコンセプトとサインの共通基準からなる基本方針、それに加えまして、歩行者系案内誘導サインのデザインの提案を見本帳として整理し掲載することにより、これまで各担当部局ごとにばらばらだったデザインについても統一を図っていきたいと考えております。

まず、基本方針におけるコンセプトについてご説明いたします。そもそもサインとは、人が行動するために必要な様々な情報を伝える役割がございますが、仙台市内の歩行者系案内誘導サインの現状を分析したところ、次の3つの課題が見えてまいりました。①情報の伝達性、②情報の連続性、③良好な景観の阻害でございます。歩行者系案内誘導サインの目的とは、全ての人にとってわかり易く、目的地への円滑な移動を誘導することにあります。歩行者系案内誘導サインのコンセプトを統一し、配置や表示内容をルール化し、情報の整理・集約化を行うため、基本方針を策定することといたしました。歩行者系サインには、スライドに示しますように、機能に応じて様々な種類のサインが考えられますが、本基本方針においては、仙台市内全域において、仙台市が整備する様々なサインのうち、案内誘導系を主な対象とします。交通機関系などその他のサインのうち一部については、統一等を図るためデザイン等の提案を行います。そしてガイドブックの使い方ですが本基本方針は、仙台市の各部局が歩行者系案内誘導サインを整備する際のデザインの手引きや、設置に関する相互調整に利用することに加え、民間等の事業者との連携・協力を図るために使用していきたいと考えております。

次に、コンセプトの中身となる、サインシステムの考え方についてご説明いたします。まず、人の行動の起点・分岐点となる「拠点」を階層化します。拠点は、行動の起点となる「交通拠点」と、行動の確認を行う「歩行拠点」に分けられ、それぞれの拠点間、階層間での移動が生じます。仙台市域の全体について拠点の概念をご説明いたしますと、飛行機、電車等、様々な交通手段により仙台にお越しの方々は、仙台駅や主要地下鉄駅・バス停などを經由し、最終的には徒歩で目的地へ至ります。

その際、拠点間で誘導の情報が途切れることなく確実に伝わっていく必要があります。これをもう少し狭い範囲で、例示したものが図になり

ます。仙台駅から地下鉄駅まで徒歩で移動し、目的地の最寄地下鉄駅で降り、目的地周辺を徒歩で回遊した上で目的地へ至ります。このようなルートを考慮することにより、実際の拠点の位置が見えてまいります。これらの行動拠点においては、それぞれの拠点の性格に応じて、必要とされる情報も異なってまいります。行動拠点と情報の関係を整理したものが図になります。

さらに、その情報の種類・情報量に応じて、設置されるサインの大きさも異なってまいりますので、拠点と対応したサインのタイプ、図に示します1～4というものをあらかじめ定めておき、一貫した情報が提供できるようにしたいと考えております。今までの説明を仙台市中心部における配置計画を例としてもう少し具体的に説明したいと思います。先ほどのサインのシステムの考え方により、仙台市中心部における各拠点を分析しまして、配置計画に落とし込んでみたものが今お示ししている図です。例として、仙台駅から国際センターまで、青葉通を歩いて徒歩で移動した場合、どのようなサインの設置を計画しているかシミュレーションしてみます。ルート内で考えられる主要なポイントは①仙台駅からペDESTリアンデッキ、②東五番丁、③東二番丁、④東一番丁、⑤国分町通、⑥晩翠通、⑦西公園通、⑧国際センター前というものが考えられます。まず、スタート地点となる仙台駅についてですが、多くの人々が目的地へ向かう始点となる交通大拠点に位置付けられます。仙台駅構内では、広域の地理や交通ネットワーク・市内の地理・周辺の地理・交通施設の方向などのサインに加え、さまざまな疑問の確認ができる案内所の機能が求められます。また、ペDESTリアンデッキにおいては、広域の地理や交通ネットワーク・市内の地理・周辺の地理・交通施設の方向などのサインを計画します。そうした考え方を元に駅構内におけるサインの一例のイメージ図です。広域・地区・周辺とスケールの異なる地図を表示することにより、不特定多数の人々に対する情報提示を行います。あくまでもこれは一例であり、実際にはこれらの情報表示の他、様々な質問に対応する案内所の設置等の対応も不可欠となります。ペDESTリアンデッキのサインのイメージ図です。これは交通施設の方向を確認するための交通手段の案内表示としての一例となります。実際には駅構内同様、これ以外にも多くの案内誘導サインが必要となります。青葉通を歩いて国際センターに向かうルートの説明に戻ります。青葉通を歩いて行きますと先ほど申し上げた、東五番丁、東二番丁、東一番丁、晩翠通、西公園通といった南北に走る大通りとの交差点を経由します。これらの交差点は、今後地下鉄東西線の駅が設置される交通中拠点、あるいは主

要な大通り同士が交わる交差点としての歩行拠点（大）に位置付けることができます。こうした地点においては、周辺地理の確認・目的施設の方
向の確認が行えるサインを設置することにより、現在地周辺および目的施設に関する情報を表示するほか、より広域の地区における情報をあ
わせて表示したいと考えています。交通中拠点、歩行拠点（大）におけ
るイメージサイン図がこちらになります。周辺地図に加えて地区として
の地図（市内中心部地図）を掲載することで、仙台市街地の構造の把握
を助けるという狙いがあります。青葉通のルートにおいて、そのほか大
通り以外の交差点については、歩行拠点（中）に位置付けられます。周
辺地図および目的施設の方向を確認できるようなサインを設置し、最低
限迷わないための情報と、周辺に関する地理情報を表示します。

続きまして、案内誘導サインの共通の基準についてご説明いたします。
案内誘導サインを整備する際の共通の基準として、設置に関する基準と、
表示に関する基準を設けます。はじめに、設置基準についてご説明いた
します。設置位置の基本的な考え方は、サインの存在が一見してわかる
位置に通行の支障にならないように設置することとし、具体的には多数
の人の動線が交差する結節点や顕在性が確保できる場所や既存の街路樹
や屋外広告物との関係に留意し、視認性を損なわない場所などへと設置
いたします。また、設置の高さにつきましては、ユニバーサルデザイン
による誰もが認識しやすい高さとします。個別設置による情報の煩雑化や
景観の阻害などを防ぐためにも、隣接するサインのデザインに共通性を
持たせることによる共存や構造体を共有し複数のサインを取り付ける共
架、さらには、共存・共架の組み合わせといたします。

次に案内誘導サインの表示の基準についてご説明します。まず、案内
誘導サインに表示する情報についてご説明いたします。主に、地図で示
される案内情報と矢印で示される誘導情報がございます。拠点の性格に
応じて、これらを使い分けて、必要な情報を提供いたします。地図に掲
載する情報については、書体・文字サイズ・ピクトグラム・施設アイコ
ン・色彩・表示方法・外国語表記・掲載施設などについて、共通基準を
設けます。今までお話してきた中の1つとなりますが、これまでの課題
の1つとなっておりました、見やすさの改善等として、地図の色彩の変
更やピクトグラムを使用するなどの基準により見やすさに配慮しており
ます。また、現在地や目的地の位置の把握には、仙台の都市構造の把握
する必要があるという課題については、都市構造を表した概念図を作成
し、地図と一緒に表示することで、位置の把握をしやすくしております。
概念図には、JRの路線と青葉通や定禅寺通、アーケード街などの通り、

	<p>そして広瀬川との位置関係がわかるように簡略化して表示し、これにランドマークとして、仙台駅、仙台城跡・青葉山、メディアテークの3つを重ね合わせたものを考えております。都市構造の理解の上で重要な通りなどでは、地図情報に加え、通りについての情報をわかりやすく表示する通り地図を設けることで、誘導性の向上を図ります。</p> <p>また、課題の1つである外国語表記の基準につきましては、昨年度経済局で行った外国人モニター調査などの結果や国の指針などからも、情報伝達性のバランスを考慮して日本語・英語・ピクトグラムを基本といたします。県庁・市役所などの官公庁や駅やバスターミナルなどの交通結節点、規模の大きい公園などの公共施設など、外国人の利用も想定される施設については、中国語と韓国語も加えた4か国語表記を考えております。なお、パンフレットなどの他の媒体との連携をはかり、多言語表記に対応します。設置及び表示の共通基準については、以上のように考えております。</p> <p>次に仙台駅における案内誘導について、基準の検討に併せまして、交通結節点であるJR仙台駅周辺における、事業者間の協力・連携につきましては、わかり易い乗り換えや移動の案内、明確なサイン配置による円滑な誘導を図るため、JRと仙台市交通局等によるワーキンググループを設置し、具体的取組みについて検討を始めております。今後は、駅前広場の再編の検討に併せ、バスやタクシーなども含めた検討を継続して行ってまいります。</p> <p>最後に、本基本方針策定後の取組みについてご説明いたします。策定後は、仙台市の様々な部局において、本基本方針を踏まえたサイン整備を行うこととなりますが、これら部局間の調整や、事業者間の連携などを統括して行う仕組みについて検討してまいります。前段にご説明にありました見本帳について再度ご説明いたします。見本帳については、これまで各担当部局ごとにばらばらだったデザインについて統一を図るためにも、デザインの提案を見本帳として整理いたします。見本例を挙げます。大拠点に設置する案内誘導サインの基本タイプがこちらになります。仙台市の都市構造の把握に係る通りの名称を顕在させるために自立型の通り名称ということで検討しているのがこちらになります。デザインを統一した様々な制御サインの提案がこちらの図になります。以上で事務局からの説明を終わります。</p>
<p>武山部会長</p>	<p>ありがとうございました。只今事務局から色々協議いただいた内容、基本コンセプトから表示の基準そして考え方についてご説明いただきました。今回の検討の全体構成ということで資料1の1枚目でございます</p>

	<p>が、平成12年策定のものから基本方針と、加えてサイン見本帳を作るという考え方が示されました。そしてコンセプトについてというブロックがあり、そしてサインシステムの考え方から案内表示サインの共通基準について、最後その他ということで連携の話とか見本帳についてということでした。本日はこれ全般についてご意見を賜われればと思います。どのパートからでも結構ですけれどもご意見ございましたらお願いいたします。</p>
相澤専門委員	<p>専門ではないのですが、地図が仙台駅周辺、地区地図、通り地図、見る限り西を上を描かれているのかな。広域地図だけは北が上だったんですけど、西が上というのは一般的というか仙台市民としては全く違和感ないんですけど、外から来られた方というのは地図の見方として西が上というのがわかりやすいのかどうかという部分がちょっとわからなかったのをお聞きしたいなと思いました。</p>
武山部会長	<p>事務局お願いします。</p>
都市景観課長	<p>都市景観課課長の廣沢でございます。宜しくお願します。今回例示させていただいております地図についてですが、資料でいきますとパワーポイントの17ページの資料だと思うのですが、駅構内のサインのイメージ図というところで、広域それから地区、周辺という3つの地図が例示されてございます。ご質問にありましたのは地区と周辺の地図について、これが西が上になってるというご質問。広域が北が上、それから地区と周辺については西が上というご質問だったかと思いますが、地区と周辺につきましては仙台駅構内で地図を表示される時に、現在置かれている地図もそうなんですけど、どちらかといいますと実際に地図を見られる方が西方向、西口を前提としてイメージを作成したものですので、西側を見ながらこの地図を見ていただくということで想定していたイメージでございます。その場合、直接見た方向に合わせて今後の行動を考えると西側が上になっていた方がわかりやすいのかなということで地区と周辺についてはこういう形の例示をさせていただいております。広域につきましては、市内全域を認識していただくため、通常の地図ですと北が上ですので、こちらについては北を上ということで表示させていただく例を描かせていただいているものでございます。</p>
武山部会長	<p>ありがとうございます。いかがでしょうか。</p>
相澤専門委員	<p>仙台駅を背にすると西を見るので降りた人はわかりやすいといえばわかりやすい。これは置く位置によって変えるということですか？</p> <p>例えば一番丁通りで市役所方向に歩いていくのは北を向いて歩きますよね。そこにある地図は北を上にするのですか？</p>

都市景観課長	<p>それぞれサインを設置している場所といいますか方向に合わせて、特に地区と周辺については地図の方位といいますか、方向を変えるというか進む方向に合わせて、進む方向の先を地図の上にするという形。やはり移動する上では、移動の混乱ということがないようにするのが見やすいのかなと考え、設定していきたいと考えてございます。</p>
武山部会長	<p>ちょっと私の方から補足させていますと、地図は立った位置に対して右に表示されているものは右行けば右にあるというのが通例でして、都市の概念とか路線図みたいなものとか、頭の中のモデルとして作る場合には北を上にするというのが、大体一般的には使われているんですけど、仙台駅の場合も検討する余地があるとしたら、メンタルモデルの方も西を上にするという可能性がないことはないと思います。要するに皆さんが全てそういうような認識をした方がわかりやすいという大前提がありますけども、そういった考え方もあります。</p> <p>それからもう1つはできるだけ一致するようにしようとすると設置位置をあまり変えず、回転させずに南北方向なら南北方向に見える位置にできる限り設置するというような配慮も必要かと思えます。</p>
増田専門委員	<p>今の点でいうと、どういうルールに従って地図が描かれているのかについて、多分一番最初にお知らせしておくようなことが必要かと思えます。仙台にいらっしゃる方向けの全体パンフレットなどに、「仙台の案内システムは、こういう理念で進行方向に向かって書いています」という記述があった方がいいと思います。地理の人なんかと話していると、絶対北が上で回転させないという人もいたり、色々なので、仙台の案内システムはこういうルールですというのを書いていた方がいいんじゃないかと思えます。</p>
武山部会長	<p>はい、他はいかががでしょうか。</p>
高橋(貴)専門委員	<p>32ページの外国語標記について、前回の専門部会で外国語標記の件のお話しをさせていただきまして、おまとめいただきありがとうございました。現在、日本語、英語、中国語、韓国語の4か国語ということですがけれども、中国語は繁体字と簡体字と地域によって使う言語、記載の言語は違います。簡体字だけが書かれていて、台湾と香港などのお客様は繁体字を使われ、個人でのご旅行をされる方が多いです。しかも仙台は直行便が台湾と繋がっているということもありますので、簡体字のみにしたことについて、教えていただきたいなと思えます。</p>
事務局	<p>外国語標記につきましては基本が日、英、ピクトを考えておりますが、必要性の高い施設などについては日本語、英語に加えて中国語、韓国語の4か国語と考えております。中国語につきましては、国の指針などで</p>

	<p>も簡体字ということになっております、高橋専門委員がご指摘されたように、仙台市の場合、大陸からの中国のお客様より台湾からお越しのお客様が多いという現実がございます。一方で仙台市内にお住まいだったり働いている方を考えると、大陸の中国籍の方の方が多い。どちら向けに表示するのかという議論もございます。基本的には仙台に住んでる方ではなくて、お越しになる方かなと思っておりますが、簡体字か繁体字にするかどうかについては、経済局など関連の部局と調整を進めているところでございます。</p>
高橋（貴）専門委員	<p>はい、ありがとうございます。</p>
武山部会長	<p>なかなかデリケートな、微妙なところですね。</p>
高橋（貴）専門委員	<p>前に所属していた部署で外国語のパンフレットなどを作ったり、情報誌に掲載していたのですが、非常に悩ましいところでした。トラブルのもとになったことが一度ありますので、少し慎重にお願いできればと思います。</p>
石井専門委員	<p>前回の議論の続きじゃないんですけど、前回の議論で3月の国連防災世界会議が1つのゴール。そのためにゴール1としては、年内に整備するものがあります。ゴール2は来年中に出来る東西線かと思うんですが、今回のご提起されたものは基本的にはゴール1で全て行おうという形なのかということ。そうなった場合にまだちょっと空白になっている仙台駅の乗り継ぎ問題のところがありますけども、そこは結構国連防災会議に関しても大きなポイントになるかと思うんですが、そこを今回はゴール1ではちょっと難しいと判断されるのかというのが1点。</p> <p>それともう1点が、基本的に非常にわかりやすいなという個人的な感想がありながら、前回も前々回も出た意見の中で、仙台らしさの中で、例えば国分町は違うカラーの案内表示があった方がいいんじゃないとか、そういった意見もありました。それに関しましてはそうではなくて全体統一でやるというのが今回の提起なのか、それともまだそういう微調整、つまり地域によって例えば伊達政宗っぽいイメージを出したいという話もあったかと思うんですけども、そういった形を残すのか、その2点を教えていただきたいの質問です。</p>
都市景観課長	<p>まず1点目ですが、スケジュールの関係につきましてですが、今回示しました基本方針とそれから見本帳の部分でございますが、こちらについて基本は最終目標といいますか、前回もいわゆる3段階というお話を差し上げたと思います。1段階目が国連の防災世界会議まで来年の3月ですね、それと東西線の開通までが2番目、その先を見据えてというこ</p>

	<p>とでのお話をさせていただいたかと思いますが、今回示している部分については基本、最終形の部分での方針ということでの内容を作成している予定でございます。</p> <p>当然、第1段階、第2段階の部分にも関連してくる部分がございますので具体の整備の計画につきましてそれぞれ、その第1段階、第2段階の整備の計画につきましては、今後庁内でもどういう形でやるかということで検討していきたいと考えております。特にご質問の中でも仙台駅の乗り継ぎというお話は確かに重要な問題だと思いますので、我々としてもどういう形で整備ができるのか、それは今後の検討ということで考えてございます。それと仙台らしさについてでございますけれども、現状の検討の中では基本的にサインの色彩といいますか色ということで、これも前回ご説明差し上げたと思うんですが、今までは基本的に全体が濃い緑色のサインを使ってございまして、地図の表示の部分も緑を中心としたような図になっており、非常に景観には溶け込んでるんですが、逆にサインとしては非常に見にくい部分があるということで、今回地図の表示については比較的明るい肌色ということで表示させていただいて、その代わりということではありませんけれども緑については、前回の委員の方から緑というのは仙台のカラーとしては非常に馴染むものではないかというご意見もございましたので、こちらの緑については枠で残させていただいて、その部分は仙台らしさということで活かしていきたいなと考えておりますので、基本的にはこの緑の色で統一していきたいと考えているところでございます。</p>
石井専門委員	<p>ありがとうございます。ちなみに中心部商店街で色々な人に聞いてもやはり意見としては、国分町は国分町という意見はあったんですけども、でも表示はこの色の方がいいと私が聞いた範囲では多かったので、多分私個人的にも統一した方がいいのかと思いました。ありがとうございました。</p>
武山部会長	<p>ちょっと補足とさせていただきますと、サインの機能性と演出性ということになるかと思いますが、今回は公共サインということがベースにありますから、まず機能が試されるということがベースになるのかなと。加えて都市としての魅力を公共のサインでも負担していくということは必要なことかなと思います。その中で前回、横長の資料にバナーみたいなものが出ていたと思いますが、例えば富山市の場合はですね、ベースになる富山シティというバナーが作られています。加えて観光用に何種類か統一してデザインされていまして、例えばおわら風の盆の時には風の盆用に差し替える。何もイベントがないときにはベースの</p>

	富山市のバナーが付くようになってきているんですね。ほっとくとダサイバナーになってしまうのでしっかりとしたベースを年間を通して何もない場合も、こういうものをつけますよと決めているんですね。ですからそれで通りなんかをある程度、個性化していくのも十分可能かなと思います。
石井専門委員	今の富山市の場合、場所はどういうところにあるんですか
武山部会長	大体、基本的に照明柱ですね。照明柱とフラワーバスケットが大体一体化されているという。あとトラムが走ってますけど、トラムの架線を支えるような道路脇の支柱なんかにもついていますね。
石井専門委員	ちなみにすみません。それは市のお金でつけてらっしゃる。
武山部会長	そうです、はい。
都市景観課長	すいません、先程ちょっと説明不足の点がございまして、サインの色彩についてですが、今回お示しさせていただいております方針については、一番はじめにご説明差し上げたと思うんですが、歩行者系の誘導サインということで基本方針を作るということで考えております。それ以外の観光用のものですか、防災用のものですか、当然それらも大きく括りますと歩行者系のサインですが、そちらについては具体について、どういう形にするかというのは検討中といいますか、調整中の状況でございまして。
武山部会長	はい、ありがとうございます。他いかがでしょうか。
石井専門委員	今の関連でもう1点だけ。中心部商店街の仕事をしているものですから、今、フラッグがアーケードの脇にある、当然その各街で使う時もあるんですけども、例えば、今富山の例にあったように、季節季節ですね、防災会議の時は出すと思うんですが、何かこう演出を変えるというのもありかな、当然3月4月は楽天応援とかで出たりとかっていうのがあるんですけど、その他何も無い時期はただ商店街とかのフラッグをかけてるといふのがありまして、広告で売りたい部分もあるんですけども、そういった季節感の演出なんかでも使われると多分来街者は変化が楽しめるかなという気がします。
増田専門委員	そうすると、今の話を引き継ぐと、七夕バージョンとかジャズフェスバージョンとかをいくつかあらかじめ作っておくという、そういうようなイメージの展開がありうるってことでしょうか？
都市景観課長	フラッグの件ですが、おそらく今アーケードとかにいくつかフラッグをかかげておられると思いますけど、フラッグについては基本商店街さんのほうで、掲げられているのがほとんどなのかなと。例えば楽天さんのものもそうですし、ベガルタさんあるいは商店街さんのそれぞれのその

	<p>商店街のそのいわゆる活性化に向けたフラッグなどが主な内容かなというふうに考えています。それについては、今回のこの基本方針の中で入るのは若干、質的に違うのかなというふうに考えています。やり方としては、もちろんこういう中にいれるという方法もあるとは思いますが、この中に入れるよりは、実際に地域の商店街さんの中で色々の形で検討されている、あるいは活性化とかで取り組んでおられる中でやっていただく方がいいのかなというふうに考えていまして、その場合は一番最後にその他ということで書かせていただいた、関係機関との調整なり協議とかそういうもので、先ほどおっしゃられたような季節感とかなんかも合わせてやっていただくようなことを調整していくという方がよろしいかなと考えております。</p>
<p>石井専門委員</p>	<p>商店街の方の立場で言うと、広告媒体としての販売もしている部分があるものですから、そこでただ、単純に企業広告にしちゃうと色々な問題が当然出ますんで、例えば七夕と企業広告がくつつくとか、そういった形での活用で活性化できないかなっていう気はしております。</p>
<p>武山部会長</p>	<p>全部を市がコントロールするというよりも、市ではこういう指針に基づいてこんなことをやってますよということを表現することによって民間の方でも、なるほどと、じゃあ我々がそれを取り込んで、こんな考え方もありますねと、そういう自由な部分も出てくることも街としては重要なかなと思います。</p> <p>順番に改めて見ていきたいと思いますが、資料1ですね、誘導サイン基本方針骨子ということになりまして、今回サイン見本帳というものを作るという事が1つ、今までにないこととしてご提案にあがっております。これは、サンプルとしてできる限りそのイメージを高めてもらうという趣旨かなという風に思いますので、良いことかなと思います。コンセプトについてということで、サインの役割、現状の課題、この通りかなと思います。</p> <p>その次の5枚目のスライドの目的のところです、ちょっと私ここ気になってまして、「すべての人にとって」というのがですね、これがなかなか難しいことでありまして、文言としてこれが固まってしまうと、それこそクレームの誘因にもなったりするという部分でもあるかなと思います。例えば主に仙台を訪れる旅行者に対してとかですね、あるいはできる限り多くの方々に、ユニバーサルデザインもそういう表現をしておりますけど、ちょっと柔らかかなところを残しておかないと、例えば仙台を訪れる方々の為という形になりますと、先ほどのことに対しても、少し指針は表示できるのかなと、これはあくまでも来る方の為のサイン整</p>

備だという事にもつながるんじゃないかなと思いました。

ガイドブックの対象ということで、それから使い方、これは役所以外で民間サインとの連携と示されていますが、結局ガイドブックを作っどこに配布され、どう使われるのかと言った時に、主にこれは公共サインなんだから、役所内のそれぞれの部署でということになると、ある程度詳しい資料ですね。逆に簡易印刷みたいなもので制作するということになるでしょうし、民間の部分であるとか外の部分をどこまで増やすかによって、冊子の分厚さも変わってくるかと思うんですね。周知という意味でしたら簡略化したような、こういうことを仙台市としてはやってくるんですよという、2つ折りとかその程度のものをお作りになるとかですね、ちょっとここが誰に対してガイドブックを出していくのかというところを、クリアにされた方がいいかなと思います。

それから、サインシステムの考え方についてということで、これはもっとも重要な部分になるわけですが、先ほどの地図も出てきましたように、ここでは大拠点ということで、地図で案内の内容をつかんで、誘導サインで受けて、行ったポイントでそれなりの通り名とかが、あるというような恰好になってるんですが、本委員会でも地図の読み取り能力みたいなことが話題になっておりました。誘導でご案内するランドマーク、前回もどれぐらいのランドマークがありますかっていうご質問しましたけれども、まずそこをしっかりと把握して整理していただく必要があるんじゃないかなと思います。駅から出て、どこをランドマークにして歩かせるのかと、そのランドマークをクリアにしていけない限り、結局案内できないですよ。駅からの構造的にいくとまっすぐ行く、そして市役所方面に行くまっすぐのところ市役所とあって真ん中のクロスポイントがある、例えば3つの非常に明快なランドマークがあると、それを誘導するとある程度行けるんですよ。ですからここでは何が言いたいかというと、地図をベースに考えていますけど、誘導サインを仮にベースとして、要するにランドマークベースで誘導することをサインシステムの骨格としたときにですね、はたして可能かどうかという事ですね。当然、複雑なランドマークがいっぱいある場合は機能しないんですよ。要するに地図で判断していただくしかないんですけど、非常に明快な拠点がもし設定できるのであれば、そういうような誘導を軸にした案内の仕方、誘導の仕方というのを考えられますよということです。

結局地図なんかもご覧なってると思いますけど、地図を持って歩いている方が、じゃあ私は今どこにいるんだろうと、地図でなんか俯瞰はしてるけど、私は今どこにいるんですかっていうことが一番問われること

	<p>になりますので、拠点と合わせてそういう位置情報をどう捉えるかと。これも以前もご指摘申し上げましたけど、欧米の街では通り名というものがいたるところについていると、通りの角には必ずその通りが何々通りである事が表示されていて、各扉には番地がついている。ですから通りと番地という情報によって位置が特定されて、かなり不案内が予測されるような女子グループが、意外とヨーロッパで歩いていたりすると。それがやっぱり、通り名と番地という非常に明快な軸があるからじゃないかなというふうに思います。その番地を各お店であったり、住居の方がつけられてるわけですね。それがまたその地域の個性を作っていたりするわけです。ですからビルとかお店なんかでも、必ず通り名と番地つけて下さいと。通り名は公共で整備するとしても、番地はみなさんちゃんとはっきりと表示してもらえませんかみたいなことになると、本当に市民と一緒にした案内というものができんじゃないかなというふうに思います。</p> <p>骨格をどう作るかというのは、本当にサインの一番大事なポイントになりますので、その辺を十分にご検討いただけたらと思いました。ずっとその拠点からのあれが続いてますね。是非皆さんの方からも意見を出していただいたら結構かと思しますので。</p>
石井専門委員	例えば仙台に住んでない方に対してテストというか、実際に歩いてもらってのヒアリングとかはなさっていらっしゃるのか？
武山部会長	どうでしょうか。そういう計画は？
都市景観課長	そこまでは実際にはしておりません。
事務局	いわゆる一般的な観光客を対象にした調査というのはモニター調査などはしてはいないんですが、昨年度平成25年度に別の部局、経済局の方で外国人のモニターを活用した調査というのは行っております。先程の外国語標記、日、英、ピクトがあれば大体情報が伝わるというのは、その結果でもそういった結果が出ているというところでございます。
石井専門委員	もしかすると外国人以外の、いわゆる国内の方もする価値はなんかありそうな気がしますよね。つまり仙台の人って、さっきの地図の話じゃないですけど、西が上ってというのが当たり前だったりしますが、ただ街の人から見たときとか、あとは先生がおっしゃったようにランドマーク、ランドマークで本当に行けるのかという問題。それが当然サインと繋がってくる訳ですから、時間的に難しいかもしれませんが、機会があればという気がしての意見でした。
武山部会長	仙台駅構内のイメージ図、ペDESTリアンデッキ出ました。ここで取って言いますと、西向いて出た時と、東向いて出た時、地図をひっくり

	<p>返すのかという課題がありますねということですね。それから交通拠点のサインということで出ておりますね。この辺の組み合わせは一般的なところかと思います。そして23ページのところから案内誘導サインの共通基準についてということですが、設置基準を表示基準とあります。先程から申し上げているそのロジックから言いますと、表示基準というのはまず掲げていただいた方がいいのではないかなど。順番として、表示の基準があって、その基準に基づいて設置する上ではこういう設置が求められると。まず設置があって表示を考えるのではなくて、まず表示の方があって表示を考えるのではないかなと思います。基本的な考え方、設置の高さ、この辺は良く考えられていると思います。それから27ページに通り地図というのが登場しまして、これは非常に面白い取り組みじゃないかなというふうに思います。その右の30ページにも俯瞰出来るような略図ということになっておりますが、理想からいくと、こういうようにわかりやすい都市構造が本番の地図で色分けなり何なりシュミレーションすることがもし出来れば、それは最高なんですけど、なかなかそこまで行かないかもしれませんね。</p>
並木専門委員	<p>さっき、15ページで仙台駅から国際センターに行くルートが示されたんですけど、実際には私たち、国際センターはほとんど利用してなくて、新しくこれから地下鉄東西線ができると、このように利用するところが増えてくると思うんですね。卸町とかもそうなんですけど、なので、道を聞かれたら案内できないなっていうふうに、正直言って思ったりして、歩いていくってことがあるかなとか、どうやって行くのがいいのかがちょっといまいよくわからない場所なんです。正直言って現時点では。なので、そういう新しく東西線ができて拠点となる場所が増えると思うので、そういうところをどうやって市民も含めて認識させていくかっていうのは結構重要な課題なんじゃないかなと。今ある先ほどのハピナ名掛丁とかクリスロード、ああいうアーケードとかいわゆる観光地っていうのは慣れているので、ある程度課題が見えるんですけども、正直言って新しくできてくる拠点についてはまだ自分でも課題が見えてなくて、ランドマークもいったいどこなんだろうっていうのが正直言ってわからないので、そういうのをみんな認識してかないと活性化しないんじゃないかなっていうのをちょっと感じました。</p>
武山部会長	<p>今の件について、いかがですか</p>
都市景観課長	<p>確かに必要っていうか大事な観点だと思います。隣の17ページのその仙台駅構内のサインのイメージ図ということで、一部を一例で掲示させていただいているんですが、確かに広域と地区と周辺と3つなんです</p>

	<p>が、今おっしゃられたような仙台市内のいわゆる行ってもらいたい場所、あるいは外から来られた方に見てもらいたい場所については、実をいうとこれだとわかる部分が限定されてしまって、もう少しその辺もわかるような地図もあっていいのかなと、そういう場所といますのは少し離れているような場所もございますから、そういう場所をどう交通機関を使って行けるのかというのがわかるようなものが、合わせてであると非常に上手く誘導できるのかなというふうには感じているところであるんですが、ちょっと図の検討がそこまで至っていないんですけど、そういう視点も非常に大事なかなというふうに思っております。</p>
<p>武山部会長</p>	<p>ヨーロッパの場合、教会とか、そういうそのランドマークを少し立体化した絵にして、地図上に持ってくると非常にその理解しやすいような工夫があります。松本市もこういうわりとオーソドックスな地図ですけども、松本城であるとか、そういったものをちょっとした簡易なイラスト化をして入れられています。やっぱりそのランドマークの対象をイメージする時に、非常に有効な手段の一つじゃないかなというふうに思いますので、そういったことも少し考えていただいてもいいのかなと思います。</p> <p>どっちかという都市地図という形で観光地図という感じではないですよ。観光地図ということになると結構そういういろんな事例がありますので、少しそういう要素も必要なのかなと思ったりもしますね。</p>
<p>高橋（剛） 専門委員</p>	<p>今ちょっと観光の話がでましたけども、都市整備局さんがいろんなお作りになる、こういう統一したデザインでやられると思うんですけど、例えば交通局さんとかそれから観光はまた別な局でお持ちになってると思うんですけど、その辺の統一性というか、部局が違くとまた違うんですけども、その辺の連携とか調整っていうのはどういうふうにされているのかっていうのをちょっとお伺いしたい。</p>
<p>都市景観課長</p>	<p>今回、歩行者系ということで計画を策定していく予定ですが、この計画を策定した後に、当然サインを整備するのは我々の都市整備局ではなくて、例えば建設局だったり、交通局だったり、場合によっては経済関係の観光だったり、他部署に当然関連してしますので、そういうそれぞれの部署で整備する時に、この基本方針に合わせる、あるいは基本方針の考えに基づいてやっていただくということの手引きにしてもらおうとか、あるいは協議していくか、それも合わせて今後検討していきたいなというふうに考えています。それと実際に、個別にすでに動いていますけどパワーポイントでご説明いたしました仙台駅については、非常に重要だということと、喫緊の課題も当然ありますので、仙台市の中では交通局と</p>

	<p>それから道路関係ですね、建設局とそれからJRさんも入りましてワーキングを昨年度開いて、引き続きどういう形で協力といいますか協議をしていくか、検討しているところございまして、合わせてその他仙台駅に関しては関連する事業所さんも当然おられると思いますので、その辺も少しく総対的に広げて、統一的なというか、一連の流れで説明できるような、サインを作っていければというふうに考えております。</p>
<p>武山部会長</p>	<p>ちょっと私の方から補完させていただきますと、表示の統一性みたいなもので、まずランドマークとか施設の言い回し方が、地図によって異なっていたりすると、部署が変わると、それは必ず統一していただきたいという事と、記号的にお使いになる色も必ず統一すべきかなというふうに思います。高岡市でも公共で整備した街路の地図とそれからパンフレットみたいなものを統一して展開していきましょと、やっているんですけども、いざふたを開けると結構難しいんですね。というのは道路上で見る情報の内容とパンフレットで、あるいは観光主体に見る場合、当然ホテルとか宿とかっていうのは詳細に出したいわけですけども、それを道路上の地図に置いてくとなかなか複雑になるし、しかもメンテナンスができないということになります。高岡の場合ではヒエラルキー表、ランドマーク一覧を作りまして、それに対してヒエラルキー、重要度、用途を整備する記号をつけています。一番上位のヒエラルキーになると、どの場所にも必ず出てくる。さらに文字の扱い一番大きくてピクトもつくというのが最上位のものである。三位以下くらいになってくると、これは地図には載るけど誘導はしないとか、そういうような一律のの基準を一覧表にしておりまして、そういう情報の台帳みたいなのをですね、そこに当然英文表記の場合こう表現します、繁体字ではこういう風に書きますという一覧で示しておくんですね、そういったことが一番共通化する上では有効な手段ではないかなと思います。</p> <p>仙台駅構内関係のところはよろしいですかね。先にいきまして、中拠点の最後ですね、それから23ページのところで設置基準、表示基準の話がありました。</p>
<p>石井専門委員</p>	<p>アーケード内の道路で扱われるわけじゃないですか、そうするとこの図でいうと、歩道的な部分というところじゃないとつけられませんといったかたちになるんですかね。</p>
<p>都市景観課長</p>	<p>今回設置いたしますのは歩行者系のサインですので、基本的には歩道の中に設置するのが大部分なのかなと。もちろん歩道じゃないところも当然ありますけど、基本歩道なり歩行者が通られるところに設置というふうに考えてございます。</p>

村上次長	<p>アーケードの部分につきましては歩行者専用の道路になっておりますけども、緊急自動車が真ん中を走るということも想定されますので、ですから緊急自動車が通行するところにサインは設置できないということで、いわゆるアーケードの柱が両脇にございますけども、そこからいわゆるビルまでの間そこはまさに車は走りませんので、そういったところですね。その空間を使いながら設置させていただくという形になるかと思えます。</p>
武山部会長	よろしいですか
増田専門委員	すいませんよろしいですか。
武山部会長	はい、どうぞ
増田専門委員	<p>パワーポイントの資料でいうと、「14ページの実際の空間上に配置した地図」と「30ページの概念図を作成しというところの図」が左側のところに書いてあるんですけど、この14ページを30ページに概念化するルールを決めていただいて、30ページの左側のところにある概念図を共通的に使うというような形が取ればいいんじゃないかなと思います。この図には西公園という言葉がなかったりするんですが、都心部の中でいうと、西公園通で一応このエリアは終わりというところですので、晩翠通と西公園、青葉通と西公園通のところで、もうちょっと積極的に、地下鉄駅の周辺を認識させる必要がありそうです。次に、定禅寺通と西公園通の終わりのところに市民会館がありますので、そこもスポットとして皆さんに意識してもらおうと、例えばタクシーの案内をするような時に案内しやすく、都心のエリアを駅と4点で押さえれば大体この範囲の中というのが、この概念図で表現できると思えます。皆さんの意識の中にある構造をもう一度引っ張りあげて、この概念図を作るところがかなり重要な作業なんじゃないかなというふうに思いました。</p> <p>第3章に、一番最初の2ページのところにこれまでの流れが出てるんですが、前は「サインガイドライン」という名前になっていて、今回は「基本方針とサイン見本帳」という2つになっています。それぞれの位置付けでガイドラインと基本方針とがどう違うのかが混乱しています。ガイドラインから基本方針になった時に何が変わるのか、それに対して民間の人たちの参照が強制力とまで言わないですけど、どれぐらいあるのかという事も、名称の変更に合わせて最初のところに整理して書き込んでおいた方がいいんじゃないかなと思います。今後もし基本方針を変えていくのであれば、基本方針の何年度版というふうにした方が言葉の混乱がなくいいかなと思いました。最後に、フォントについてです。このガイドラインの32ページにもあるんですけど、個人的に言うとゴ</p>

	<p>シックのローマ字がややボールドになりすぎてるような印象があったり、見た目の黒さは結構難しいなと感じました。おそらく今後それらの点は最後のところで、もうちょっと議論されていくんだと思います。他にも、JR仙台駅って書いてある32ページではJRのフォントが太すぎるイメージもあったりしますので、専門のデザイナーの方に調整していただきたいと思います。</p>
武山部会長	<p>ちょっと大事な御指摘がありまして、2ページの増田委員のご指摘でガイドラインがその基本方針とサイン見本帳になる。これって横にガイドブックってありますけど、この表題ってこれそれぞれなんですか。私はガイドラインの中の目次として基本方針と見本帳があるのかなと勝手に思い込んでいたんですが。</p>
都市景観課長	<p>今回、現在ありますガイドラインが基本的には基本方針に直していくという形を考えてまして、見本帳については、あくまでデザインの参考といいますか、作るときの参考にするための資料という形の位置づけをしようかなということで、この構成を現在考えてございます。それとあと名称については、増田委員からもお話ございましたが、実際に今回のその方針を作った後の、活用といいますか使い方の問題はまだ若干検討できてないところがありますので、その辺りも含めて新たな取組みをしていきたいという意味で、名称の方も変えていった方がいいかなということで方針の方にさせていただいております。方針と見本帳と言いますか参考の資料と合わせて、1つのガイドブックにしていきたいなっていうのは考えている内容でございます。</p>
武山部会長	<p>一応この2つでガイドブックになるんですね。</p>
都市景観課長	<p>そうですね。1つの冊子にしていきたいというふうに考えております。</p>
武山部会長	<p>それから、14ページと30ページの絵というのも非常に良いご指摘をいただいたかなと思います。まさに、この14ページっていうのが1つの概念図につながるような骨格が表れているのではないかなと思いますが、そういったものをどう現行の地図にフィードバックしていくのかということでしょうかね。もう余計な細かい路地はやめてこういうメインの通りだけにするんだみたいな、そこまで思い切ってやるという手もないかもしれませんし、あるかもしれませんけどね。</p>
都市景観課長	<p>14ページ、現在配置の計画を落としておりますけども、どちらかといいますと、前段にありますそれぞれのサインの設置の考え方に合わせて落とし込んでいるような絵になっています。先ほどの増田委員からもありましたように、本来であれば、必ずしも中心部といってもそれぞれの位置付であったり、周辺の状況が同じではありませんので、もう少し</p>

	<p>メリハリをつけて、あるいは地区の特性に合わせて、配置の方も少し考えていっていいのかなというは感じてるところもあります。</p>
武山部会長	<p>いずれにしても、道路上で見るということはある程度距離があって、しかもできるだけ短時間で見たいという事ですから、近寄っているさなかから、あーなんとかなんな感じだっって読み取れるっていうのは14ページの方がはるかに読み取れることは確かですね、できるだけシンプルにどういう構造で、現在地がどこでっていうような基本情報が、うまく伝わるような地図になればなって思います。</p>
並木専門委員	<p>基本的にはすごい改善され親切になっていいと思うんですけど、どうやって行く手段が一番最適なのかっていう事が、さっきの国際センターにこだわって申し訳ないんですけど、どうやって行ったら一番いいのかって、ここについてわかるのかなっていうのはあって、それがわかったらいいなって思いました。</p>
武山部会長	<p>いかがでしょうか</p>
都市景観課長	<p>多分行く手段ということになりますと、一番認識する場所というのが、おそらく今回の拠点で言うと交通の大拠点だったり、場合によっては中拠点ぐらいの部分が一番重要になってくるのかなというふうに感じております。そういう意味では地図もそれに合わせて設定しておるんですが、この中の情報で歩いていくだけの情報ではなくて、交通機関をどう使うかっていうのも、本来この情報の中に入れていけると一番いいかなというふうには思っているところではあるんですが、どういう形で入れていくのがいいのかっていうのはまだ、検討なり調整中の部分なのかなと。一番大きな部分がおそらく仙台駅の部分が一番大きな部分になってくるのかなというふうには思っています。現状でも仙台駅でJRさんのほうでももちろん表示をさせていただいているところもありますし、あるいはバスについてはバス協会さんの方がいろいろ設置してバスの乗り換えとかについて設置していただいているものがありまして、それぞれがいろんな形で、表示をされているんですけども、それがわかりやすいものなのかっていうのが現状では課題としてあるのかなというふうに思っております。非常に大事なポイントだと思いますので、検討の方はしていきたいと思っております。</p>
武山部会長	<p>周辺地図というのは基本的に歩いていける範囲であるべきじゃないかなと思いますね。ここに表示されてるのは歩いて行ける、それ以外は地区地図の方に入るという考え方かなと思います。</p>
相澤専門委員	<p>まったく地図の表示とかちょっとはずれちゃうんですけども、わかりやすさとか案内とかっていう部分で、非常に仙台のちょっと離れたとこ</p>

	<p>ろはわかりにくい。バス経路図も最終目的地がバラバラなので途中で何系統も本来は乗れるんだけど、途中の降りってわかりにくい。何を言いたかったかという、今例えばスマホだとかデジタル情報をガイドラインに入れ込むというよりは将来的な話だと思うんですが、国際会議とか外国の方 Wi-Fi 環境が仙台宮城県っていうか日本がちょっと弱いのかな、合わせて臨時でもきっちり Wi-Fi 環境を使えるようにしないと外国の方からは怒られちゃうと思う。そういった部分も含めてデジタル情報を使える人は非常に取りやすい埋め込んどくだけでいいので、埋め込んどいて使える人はそこにかざしてやるとその情報が取れて、こっからだったら案内図が出ますよみたいな、デジタル的な案内誘導っていうのも、これからは必要なのかなというふうに思ってます。仙台駅なんかは、まだまだあれですけど、①ステーション置いたり、全部はなっていないんですがロッカーは、一応スイカロッカー、スイカでお使いになる部分においては、1、2、3階バラバラにおいてあるんですけど、そこが満タンでもそこで調べればどの階のロッカーが空いているかがわかるようなサービスはさせていただいてます。そういう意味で、もう文字情報とか地図情報とかこれだけで、仙台市内の案内とかその施設までの経路を全部わからせるというのは非常に難しいから、そういうのが使える人にはそういったものを一緒に合わせて、入れてけるような、仕組みだったり方向性だけでも作っとくっていうのがあった方が便利になってくのかなという思いがしています。</p>
武山部会長	<p>はい、ありがとうございます。最近デジタルツールがどんどん安くなってきて例えば USB とかそういったものを国際会議なんかでつけるとすべての情報をそこに入れて配布するなんていうのは当たり前ようになってきたりしますが、会議の参加者に専用のそういうツールを配布すると、色々な通信事業者さんの協力も得てそれがお土産にもなる、参加のすべての ID がそこに入っているというような形のものでありえると思いますね。そんな事も少しご検討いただいてもいいかと思いません。</p>
石井専門委員	<p>さっき並木さんもおっしゃっていたように、例えばどこどこに行くというのはなかなか難しい、ただ困った時は最悪タクシーに乗っていく。タクシー乗り場という表示というのも駅周辺はあると思うんですけども、例えば一番町の街中を歩いていて通り地図なんていうのがあるというところでの表示を考えてらっしゃるかそれとも、普通に駅前で拾えるから特には気にしないかっていうのはどうでしょう。</p>
事務局	<p>通り地図も含めましてその地図の中にどういった情報を掲載するかと</p>

	<p>いうところが1つ、基準を作成する上での検討課題になっております。今現在のこの平成12年の作成したガイドラインもそうなのですが、その掲載基準というのを設けてその地図の中に表示する施設だったりあるいは場所だったりを決めております。今ご指摘のタクシー乗り場については、具体的にタクシー乗り場というような表現では入ってなかったと思うんですけども、交通機関として、鉄道・バスなどは記載することにしております。今のご意見も参考にしまして、タクシーなども連携をする上では必要かなというふうに考えておりましたので、踏まえて検討してまいりたいと考えております。</p> <p>あと、先ほどのご指摘とも関係するんですけども、この歩行者系誘導案内サインだけですべて案内できますよというような前提で検討しているわけではなくて、私ども都市整備局の都市景観課の他に建設局の道路計画課とそれから経済局の観光交流課が、3課で事務局をやっております。その中で道路上につけるサインであったり、あるいはその案内誘導サイン以外の媒体、先ほどの相澤専門委員のご指摘のスマホだったりあるいはパンフレットだったり、そういった他の媒体との連携を図っていくということで観光交流課の方でも今、検討をしてもらってます。ただ時間的、財政的な制約がございますので、国連防災世界会議までどこまでできるかというのは、ちょっと課題がございますけども、今後ガイドブックを作って継続して、他の媒体との連携も図っていききたいなというふうには考えてございます。</p>
増田専門委員	よろしいですか
武山部会長	はい、どうぞ。
増田専門委員	<p>今のスマホのアプリの件ですが、どれくらい可能性があるのかよくわかりませんが、仙台市が持っている交通系のデータとか、その他のデータをオープンデータとして出していただければ、アプリを作りたいという人がたくさんいると思うんですね。何千万もかけて発注しなくても、そのデータを使ってアプリを作りたい人いませんかと、ハッカソンみたいなことをやれば、いくらでもいると思います。病院の案内とか、そういうものも含めて街全体のオープンデータ化と合わせた先駆けとしてペDESTリアン系のものをやってみるというような位置づけが、将来の事も考えるといいんじゃないかなというふうに思います。</p>
武山部会長	<p>非常に面白いご提案だと思います。他いかがでしょうか。略図のところから外国語標記、これは先ほども出ておりました、そして、ここでフォントの話も出ておりましたね。これはぜひ調整いただくとしかいいようがないかなと思いますが。その次のその他のところでは、仙台駅にお</p>

	<p>ける案内誘導については、細かなこともいろいろあるだろうということでしょう。ワーキンググループによる検討。それで事業者間による検討を行いますとうことですが、そのような形で宜しいですか。それから、庁内庁外とも連携、この庁外というは具体的にはどういったところが主に挙げられるんですかね。</p>
都市景観課長	<p>現在想定として考えているのは、当然市内を含めてですけど、宮城県さんだったり、あるいは国交省さんだったりそういう当然行政関係の組織もごさいますし、もうすでに調整させていただいていますJRさんとか当然バスの事業者さんとか、場合によりましたら先ほどちょっとの方からもお話ありました、通常の民間の方への働きかけとかっていうのも出てくれば、そういう方々も含めて広い範囲での民間と考えております。</p>
武山部会長	<p>はい、ありがとうございます。あとは見本帳ということですが、見本帳があってそれを参考に各担当の部署で制作されるというイメージになりますでしょうか。その制作されたものが、そのデザインがしっかりと統一性が保たれているかどうかのチェックシステムみたいなのはどうなりますか。</p>
都市景観課長	<p>実は現在の平成12年作成いたしましたガイドラインについては、このガイドラインを参考にして整備をしていただくということで、特にチェックというか確認は専門の部署、あるいは統一的に行っているものではございません。今回、実際に12年に作った後で色々な課題も出てきてるところがありますので、チェックと言ったらいいのかどうか、場合によったら協議みたいな形になるかもしれませんが、その辺をどういう形で今後運用していくのか、それについては引き続き、検討しているところでございます。できるだけこういう方向性にもっていただけるような、あるいはそういう形ができるような、体制を作っていきたいなというふうに考えております。</p>
武山部会長	<p>ぜひそれはお作りいただいて、作られたものが一元的に台帳なんかにしなくても管理されていると、仙台市内のサインについて、どこの部署が担当になったものでも、その書棚に行ったらちゃんとわかる体制というのは非常に重要なことというふうに思いますので。あと、最初の39ページはこれ先ほどから言ってますように、通り面には必ずなんかID、番地であったり、そういったものがもし可能であればつけていただきたいなというふうに思います。</p>
増田専門委員	<p>最後のこの39のところの通り名ですけど、欧米では道路に平行についていまして、車道走っているときに見える方向に何とかストリート</p>

	<p>とか、何とかアベニューとかって書かれています。それは交通系だと考えると、歩行者系は進行方向に対して定禅寺通と見えるように立つということですか、それとも横向きになっているものは道路に平行につくんですか？そのへんの道路との位置関係は？</p>
<p>都市景観課長</p>	<p>その39ページの通り名のサインですが、基本的には歩行者の方が、使えるというか見るサインですので、縦のものは当然歩行者の方の歩いている方向に対して、表示される。下の低いものはそうですね、場所を設置する場所にもよると思いますけども、これは今のところ植え込みに設置するタイプとして考えております。ですので、道路に平行というよりは植え込みですので、歩いている方向に対して設置するという形になると思います。場所と位置に当然よると思うんですけど、植え込みといってもそれほど幅のないところであれば、道路に平行になる部分もあると思います。</p>
<p>武山部会長</p>	<p>当然方向性がありますから、方向性がはっきりとわかるようにしていただくというのが望ましいかなと思います。通り名の場合はできたら左右方向にちゃんと通り名が来るといいう形が一番わかりよいとは思いますが。他、前半部分でも結構です。何か抜け落ちてる点がございましたらお願いします。</p> <p>いくつもお指摘をいただきましたけれども、今回の資料としましては事務局の方でご提案いただいたもの、概ねこの方向でよいのではないかなということではなかったかと思えます。その中で、個別に少し答えをいただけたらということですが、特に地図の標記概念図のあたりは今はないトライアルかと思えますし、仙台の新たな個性といいますか魅力としてご活用いただければよいのではないかなと思います。それから、番地とかデータのアプリ制作とか市民とももっと関わりをもって、進めていくというようなこともこれからのサイン作りという意味ではですねよいのではないのかというようなご意見も出たと思えます。あとは仙台駅周辺については個別にご検討いただくという大体的な方針が確認されたかと思えます。その他、皆さんの方から特に何かございましたら、よろしいですか。この部会としてはそのような形でまとめさせていただいて、今後パブリックコメントに向けてご準備をお願いしたいと思います。では、事務局お願いいたします。</p>
<p>5. 閉会</p>	

事務局	<p>専門委員の皆様、本日のご審議ありがとうございました。本日の意見を踏まえましてパブリックコメントの最終案を作成しまして、次回5月13日の専門部会にご報告したいと思っております。次回の専門部会の5月13日の午前10時の開催予定でございます。改めて文書でご連絡いたしますので、皆様よろしくお願いたします。それでは以上をもちまして、平成26年度仙台市景観総合審議会専門部会を閉会いたします。どうもありがとうございました。</p>
-----	---